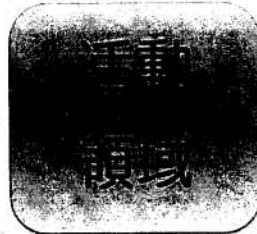
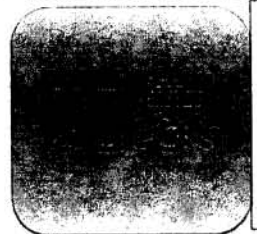


活動領域と対象



- 急性期から亜急性期病院の病棟
- 創傷に関連する外来等
- 在宅領域への拡大も視野に



- 慢性創傷患者
- 褥瘡 下肢潰瘍 離開創
- ストーマ造設術後創

17

特定看護師（仮称） 修得を目指す医行為

医師の包括的指示のもとに以下の医行為を実施

- 慢性創傷を有する患者のアセスメントに必要な血液検査、生化学検査、細菌検査、血流評価検査、超音波検査等の決定と評価
- 皮膚の局所麻酔の決定と実施
- 慢性創傷のデブリードマン
- 慢性創傷の治療に必要な外用薬、創傷被覆材の選択
- 皮下組織までの皮下膿瘍の切開・排膿
- 慢性創傷の陰圧閉鎖療法の実施
- 慢性創傷に対するデブリードマン時の電気凝固メスの凝固モードを利用しての止血（医師の直接指導のもと）
- 非感染創の皮膚表層の縫合および抜糸

18

医行為の選択理由

褥瘡	超音波検査で創深部の評価 深い創—早期のデブリードマン 陰圧閉鎖療法の決定と実施 創傷被覆材と外用薬の決定 浅い創—保護の創傷被覆材の選択	創の重症化の予防 早期治癒
	血流検査等で治療方針の決定 デブリードマン 創傷被覆材や外用薬の決定	創の重症化の予防
下肢潰瘍	血液検査等で創傷の評価 創の創傷被覆材や外用薬の選択 創の縫合（非感染の表層）	創の治癒促進
ストーマ造設 術後創	縫合創—感染や膿瘍の場合は切開 粘膜皮膚の縫合の完成—早期の抜糸	合併症予防 創の治癒促進

19

皮膚・排泄ケア認定看護師のヒアリング結果

（真田弘美他：皮膚・排泄ケア認定看護師による高度創傷管理技術を用いた重症褥瘡防止に関する研究 2010）より

「壊死組織のある褥瘡を目の前にし、この壊死組織をただちにデブリードマンできれば、早く治癒させることができるのに、医師の対応を待たなければならぬ・・・」

必要な追加教育を受けた上で、医師の包括的指示のもとに創傷治療に必要な検査の決定やデブリードマンができれば早く、褥瘡を治すことができる・・・

慢性創傷を持ち、さまざまな問題を抱えた患者さんの生活の質を向上させるために積極的に関わりたい。

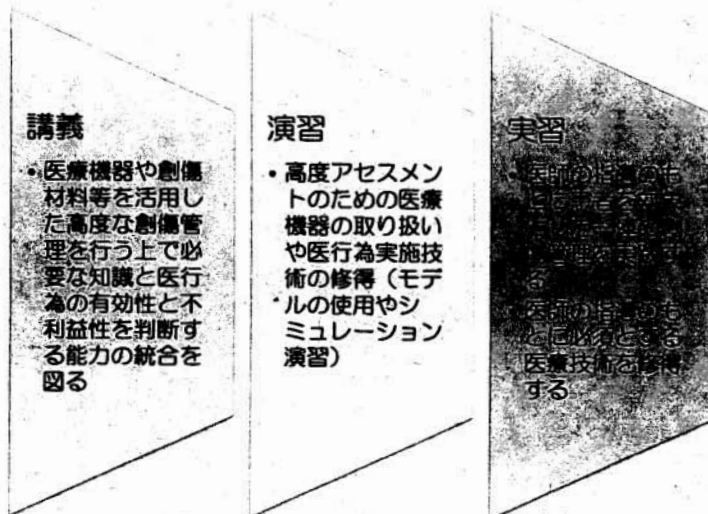
20

期待される効果

慢性創傷の重症化や治癒遅延を防ぎ、早期に治癒を促進させることで治癒期間の短縮、それに伴う入院期間の短縮などの効果が期待される。

21

講義-演習-実習への流れ



23

修得を目指す能力による成果は

- 創傷の重症化を防ぎ、治癒が促進
- 入院期間の短縮や看護師による介入で医療費の負担が軽減
- 生活に即した創傷管理計画の提供

患者のQOL向上・患者の満足度が高まる

医療職へのメリット

- 医療スタッフ間の連携・補完の推進
- 看護師のキャリアアップのモデル

効率的なチーム医療の展開

22

養成調査試行事業 実施課程の教育内容 フィジカルアセスメントに関する科目

		単位数	時間数	担当教官
実施課程	アドバンスト創傷アセスメント	1	15	形成外科医師2名 看護師2名
修了科目 (CN教育)	創傷ケア総論Ⅱ	1	15	医師4名 看護師7名 管理栄養士1名 理学療法士1名
	創傷ケア各論Ⅰ	1	15	
	創傷ケア各論Ⅱ	1	15	
	病態栄養学	1	15	

24

フィジカルアセスメントに関する科目のシラバス
アドバンスト創傷アセスメント (15時間1単位)
 担当講師：医師2名 看護師2名 (創傷看護研究者)

目的：
 創傷を早期にフィジカルアセスメントできる知識と技術を理解し、安全な早期介入ができる。

目標：

- 創傷の感染とクリティカルコロナイゼーションの違いを評価できる。
- 創傷の深さと治癒過程を早期に評価できる。
- 創傷を早期に発見する検査方法を理解する。
- 下肢潰瘍の血流評価する検査方法を理解する。

内容：

- 創傷の感染の評価方法
- 創傷の深さおよび治癒過程の評価方法
- 褥瘡の深さと深部組織障害 (DTI) の評価方法
- 下肢潰瘍の評価方法

25

養成調査試行事業 実施課程の教育内容
 臨床薬理学に関する科目

		単位数	時間数	担当教官
実施課程	臨床薬理学 I・II	2	30	医師2名 薬剤師1名 弁護士1名
修了科目 (CN教育)	皮膚・排泄ケア概論 (臨床薬理学)	0.4	6	医師2名

26

臨床薬理学に関する科目のシラバス
臨床薬理学 I・II (30時間2単位)
 担当講師：医師2名 薬剤師1名 弁護士1名

目的：
 医薬品を適正使用するために薬物動態学や副作用について、理解する

目標：

- 1)薬物の体内動態に基づく薬物相互作用について説明できる
- 2)薬物体内動態に対する年齢・性差・栄養の影響を説明できる
- 3)薬物副作用について理解する
- 4)薬物の至適投与方法について理解する
- 5)薬物投与に関する関連法令について理解する

内容：

- 1)薬物の種類と構造
- 2)薬物の体内動態
- 3)生体内の情報伝達システム
- 4)薬理遺伝学
- 5)薬物の体内動態への内的要因による変化
- 6)中枢神経、末梢神経作用薬
- 7)循環器作用薬 (血液凝固)
- 8)呼吸器系作用薬
- 9)化学療法薬
- 10)薬物の副作用
- 11)薬物の至適投与方法

薬剤処方に関する法令

目的：
 創傷の重症化を防ぎ、疼痛管理および治癒促進のために安全に医薬品を選択、使用するための薬物動態学や有害皮膚について、理解する

目標：

- 1)疼痛管理に使用する薬物の種類や効用について説明できる
- 2)薬物体内動態に対する年齢・性差・栄養の影響を説明できる
- 3)薬物副作用について理解する
- 4)薬物の至適投与方法について理解する
- 5)薬物投与に関する関連法令について理解する

内容：

創傷に関連した疼痛管理

- 1)創傷管理に伴う疼痛アセスメントに必要な神経伝達経路について理解する
- 2)薬物療法、非薬物療法を用いた疼痛管理

創傷管理に関連する薬剤

- 1)全身管理に使用する薬剤・感染、血流改善、栄養管理
- 2)局所管理に使用する薬剤・外用薬、局所治療薬ほか
- 3)局所麻酔に使用する薬剤

27

養成調査試行事業 実施課程の教育内容
 臨床生理学に関する科目

		単位数	時間数	担当教官
実施課程	病態学特論	1	15	医師1名
	創傷病態生理学	1	15	医師4名
修了科目 (CN教育)	創傷ケア総論 I	1	15	医師2名
	ストーマケア総論 I・II	2	30	医師5名
	失禁ケア総論	1	15	

28

臨床生理学に関する科目のシラバス
病態学特論/創傷病態生理学 (30時間2単位)
担当講師：医師5名

<p>目的： 特定医行為の実践に必要な疾病を病態的に理解し、患者に起こっている症状を臨床推論し、評価できる知識を修得する</p> <p>目標： 1)病態生理を通して、特定領域における頻度の高い疾病の理解ができる 2)患者に起こっている症状を臨床推論し、診断評価につながる疾病の理解ができる。</p> <p>内容： 1. 病態生理と臨床症状 1)心不全の機序と分類に応じたアプローチ 2)呼吸機能(肺の生理) 3)中枢神経異常の局在診断 4)アレルギーと免疫疾患 5)消化システムからみた主要疾患 2. 心臓・血管の動きと心音の評価 3. 血液学 4. 水と電解質 5. がんの生物学</p>	<p>目的： 創傷の重症化を防止、早期に治癒を促進させるために、各種創傷の病態を理解する</p> <p>目標： 1)各種急性創傷の病態について理解する 2)急性創傷の治癒機序と治癒を阻害する因子について理解する 3)各種慢性創傷の病態について理解する 4)糖尿病足病変が悪化する機序について理解する</p> <p>内容： 急性創傷の病態学 1)急性創傷の種類別病態について理解する 2)急性創傷の治癒機序について説明できる 3)治癒しない創傷の病態について理解する ・全身的要因・局所的要因 慢性創傷の病態学 1)慢性創傷の種類別病態について理解する 2)慢性創傷の治癒機序の要因を説明できる 3)治癒しない創傷の病態について理解する ・血流障害・低栄養・神経障害等 糖尿病性足病変の病態学 1)糖尿病性足病変が悪化する全身状態(血糖コントロール等)について理解する 2)糖尿病性足病変が悪化する局所状態(知覚障害、血流障害等)について理解する 3)糖尿病性足病変の病態を評価する方法とその解釈について理解する 創傷と鑑別を要する皮膚疾患 1)皮膚欠損を伴う皮膚疾患とその病態について理解する ・皮膚がん・皮膚潰瘍等</p>
--	---

養成調査試行事業 実施課程の教育内容
その他の授業科目(演習実習以外)

		単位数	時間数	担当教官
実施課程	創傷管理技術 創傷デブリードメント 臨圧閉鎖療法 創傷被覆材理論 超音波診断学	2	30	医師4名 診療放射線技師1名 看護師1名
	特定看護師(仮称)概論	1	15	看護師4名
修了科目 (CN教育)	アプライアンス I・II	1	15	看護師11名 その他3名
	リハビリテーション 概論	1	15	
	共通科目	7	105	看護師9名 その他2名

養成調査試行事業 実施課程の教育内容
演習科目

		担当教官
実施課程 1単位 30時間	創傷管理技術 目的：創傷の重症化を防止、早期に治癒を促進させるために、創傷管理技術を習得する 1)創傷の治癒を促進させるためのデブリードマンおよび切開方法を修得する 2)創傷の治癒を促進させるための臨圧閉鎖療法について習得する 3)創傷被覆材を選択し、被覆技術を習得する 4)創傷の治癒を促進させるための縫合法を習得する 5)創傷の高度なアセスメントをするために超音波検査法を習得する	医師3名 看護師1名 診療放射線技師1名
修了科目 (CN教育) 6単位 180時間	皮膚・排泄ケア技術(創傷ケア、ストーマケア、失禁ケア技術)	看護師13名 理学療法士1名
	コンサルテーション(相談)	
	インサービス(講義等のプレゼンテーション)	
	トピックペーパー(文献検索・講読)	
	ケースレポート	

養成調査試行事業 実施課程の教育内容
実習

		担当教官
実施課程 2単位 90時間 必須経験技術 デブリードマン 縫合、切開 ドレナージ 臨圧閉鎖療法 超音波診断	目的：創傷の重症化を防止、早期に治癒を促進させる医行為の実践に必要な評価や実施能力を身につける。 目標： 1)褥瘡や下肢潰瘍の創など様々の創傷を有している患者の問題を医療機器や検査を用いて、アセスメントできる 2)褥瘡や下肢潰瘍の創など様々の創傷を有している患者の重症化を防止、早期に治癒を促進させる創傷管理技術が実践できる 3)褥瘡や下肢潰瘍の創など様々の創傷を有している患者や家族を対象に相談や教育的指導が行える	医師2名 看護師1名
修了科目 (CN教育) 5単位 240時間	1.ストーマの造設に伴って生じる患者の身体的・精神的・社会的問題を的確に把握し、専門技術を用いて高い継続的な看護が提供できる。 2.褥瘡や潰瘍、ドレナージ挿入中の創などの種々の創傷を有している患者に対し、アセスメントを行い、専門的なスキンケアと創傷管理ができる。 3.失禁のある患者に対して、個人の失禁状態に適した看護を提供できる。 4.患者・家族・重要他者の相談に対し、的確に応え指導できる。 5.ストーマケア・スキンケアの質を高めるために患者・家族・重要他者はじめ医療チームメンバーに対し、教育の原理・原則を応用し教育できる。 6.患者の問題解決に向けて、他の保健医療チームメンバーと情報の交換を行い、相談・調整できる。	看護師3名 臨床指導者 (認定看護師 各施設1名以上)